



RIテーマ

会報

クラブ 会長テーマ

「人の和・縁を大切に「なかま」との楽しいふれあいを」



2008-10-15 第 8 5 3 回 / 第 8 5 4 回ジョイント例会 NO. 19-12/13 2008-10-22 発行

◎司会 SAA・親睦委員会 中谷 紘子

◎点鐘 会長 伊澤ケイ子

◎ロータリーソング「我らの生業」
ソングリーダー 菊池 敏◎お客様紹介 会長 伊澤ケイ子
弁護士 松田 政行 様

◎会務報告 会長 伊澤ケイ子

<多摩東グループ協議会報告>

1. インターンシップについて、本年度都立第5商業高校より200名ほど2/17~19まで受け入れることにしました。昨年同様受入をお願いしたい。
2. グラム地区大会参加者にまだ余裕があります。
3. 多摩東グループ繰越金について(07~08年)繰越金1,242,686円を6月末の会員数417名÷1人2,980円を返金することに、各クラブ会長、幹事が了承しました。

その後、9クラブ各会長より近況報告があり、会員増強に皆さん苦勞されているようです。

研修会は、地区ロータリー財団委員長より『未来の夢計画』について説明がありました。

◎幹事報告 幹事 小田 良生

1. HP 立上げについて、今月8日に海野前 IT 委員長と HP 作成業者と打合せをしました。HP の内容(コンテンツ)については、海野会員に委員会を組織いただいて、煮詰めることとし、業者には事務局が受講する HP 作成教室の選択などハード面の作業を進めていくことになっております。基本となる HP の完成は、12月末を予定しております。
2. 富士見 RC と友好クラブとなることについての行動予定ですが、富士見 RC のご了解をえて、10/30の例会に出席しご挨拶をすることとなりました。今日現在の参加希望者は役員6名会員2名の8名で、日帰りを予定しております。

配布資料：なし

回覧：ガバナーズマンスリーレター10月分

R財団 NEWS 「ロータリー財団未来の夢計画」
08-09年度 多摩東グループ野球大会結果
ハイライトよねやま104号

【委員会報告】

◎出席報告 出席奨励委員会 宮村 宏

会員総数 34名
出席義務者数 33名(出席免除者1名)
出席者数：第853回 26名 第854回 22名
欠席者数： " 6名 " 8名
(事前MU： " 1名 " 3名)
出席率：第853回 81.82% 第854回 75.76%
10月1日 最終訂正出席率 78.79%

◎ニコニコBOX SAA・親睦委員会 岩野 京子

伊澤ケイ子 松田様ようこそ。卓話宜しくお願い致します。

小田 良生 松田先生、宜しくお願いいたします。

萩生田政由 松田様、本日の卓話楽しみにしています。

菊池 敏 卓話楽しみにしております。

小泉 博 皆さん!!障がい者テニス頑張りましょう!!

宮村 宏 松田様卓話楽しみです。

中谷 紘子 気持ちのいいお天気です。

関岡 俊二 松田政行先生、卓話楽しみにしております。

杉野志保子 お久しぶりです!

津守 弘範 卓話松田弁護士さん楽しみにしております。

本日の合計¥12,000(累計¥234,845)

◎卓話『企業の知的財産戦略と法』

弁護士 松田 政行 様

卓話者紹介 プログラム委員会 吉沢 洋景

我々が子供の頃、日本の経済は《ものづくり》でどんどん拡大していくと、日本が幸せになると思っていた時代でした。工場はどんどんと大きくなり、関わる人も増えていきましたが、ある時を境にどんどんと縮小していき、

気が付けば、《ものづくり》の舞台は中国等に場所を移していました。産業の変化というのは、10年スパンくらいで見ると大きく変わっています。日本は今、自動車産業では世界でトップです。コンピューターや通信技術でも世界一と言っていいでしょう。では次に日本が産業の柱とするのはどこでしょう？日本が世界の中で《ものづくり》をリードする、というのは、これからも絶対に変わらないと思います。精密な《もの》を作る技術、機械や、それを管理するコンピューターシステムなどを導入して《もの》を安く作る技術というのは、工場を国外に移したとしても日本が一番です。こういった技術は、《特許》という権利で独占できるようになっていますが、これも分かりやすい《知的財産権》のひとつです。最近、特許の他にも大きな《知的財産》としての柱が生まれてきました。それが《コンテンツ》です。インターネットの発展により、日本の新たな産業の柱になるのはコンテンツビジネスだと政府は考え、《知的財産戦略本部》を作り力を入れています。本当にこれ以上の大産業になるのか？と疑問を抱く方もいるでしょう。なるんです。今や多大な経済力を持っているアメリカのYouTubeは、《世界中で1日に1億件》という莫大なアクセス数を活かした企業からの広告収入で成り立っています。どうして儲かるのかと言えば、元となるシステム構築には大変な費用がかかりますが、人々が見に来る目的であるコンテンツ（中身）が、タダだからです。YouTubeは《世界中の人が自ら無償でアップロードし、無料公開されているそれらを世界中の人が見に来る》というサービスです。しかし、無料で提供されているコンテンツの3分の1は、日本のものであり、アクセス件数も日本のコンテンツが圧倒的に多いのです。世界中の多くの人が、日本のコンテンツ（特に人気があるのが漫画やアニメ）を面白いと思っています。YouTubeにタダで儲けさせているものの3割は、日本のコンテンツなのです。ならば、それと同じことを日本でもやればいいじゃないか。と、誰もが考えます。《特許》と《著作権》が、経済や産業の2つの大きな柱になることを目指して、政府は今、産業構造を変革しようとしています。世界中の多くの人が面白いと言ってくれるコンテンツ（中身）は既にある。それを世界中に向けて供給するための技術も既にある。国も企業も乗り気で、反対する人はいない。だから、いつでも出来るように見える。けれど、出来ない。何故かと言ったら、《知的財産権》が問題になるからです。YouTubeにアップロードされているものの多くは、いわゆる《著作権法違反》で無断でアップロードされているものです。つまり、コンテンツの制作者に一銭の還元もないのです。見る側は良いですが、制作者側は疲弊していき、最終的には良質のコンテンツが生まれなくなってしまう危険性が

高いのです。無料でコンテンツを提供することで認知度が広まり、最終的には利益が得られると言う人も居ますが、総合的に見て制作者側のデメリットが大きすぎます。「ならばきちんと権利処理をして100%適法な形の有料サービスを提供すればいいじゃないか」ということになり、日本の政策のひとつとして仕組み作りが現在行われているのですが、これも難しい。何故なら、日本のコンテンツは、それぞれの権利の所在が複雑であり、肝心の《利益の分配》が上手くいかないからです。特にテレビ番組や映画などは権利者が膨大で、処理がとてつもないわけですが、このままでは、なかなかコンテンツ事業が進められません。そんな中で、現在は2つの考え方が生まれています。ひとつは、権利者を法律で定めてしまう方法。映画ならば映画会社、音楽ならばレコード会社、といったように権利者を大本の組織に無理矢理してしまうことで、管理をし易くする方法。しかしこれは、組織内での分配でトラブルが発生し易いなどの問題もよく含んでいます。もうひとつは、業界ごとに利益分配のルールを話し合いで作る、そのルールに則った分配方法を行えるコンピューターシステムをまず作る。それによって適正な分配を行う、という方法。現在、今後の日本のコンテンツ業界を大きくしていく為にはどうしたらいいのかを、どちらの派も良く考え、話し合っているところです。《日本から日本のコンテンツを世界に発信していく》という事業は、それだけに留まらず派生するビジネスも多くあり、そういうものも日本から提供できれば、アジアにおけるコンテンツの流通は日本が覇権を握ることができるとし、経済的にはそうならなければいけない。アジアからは日本の文化や情報を押しつけられるのではないかと、いった懸念や反発も出るでしょうが、それも踏まえて、法整備やシステムを整え、更に良いコンテンツを作っていかなければなりません。企業も、そうした状況を踏まえての対応が必要になってくることでしょう。



・質疑応答

海野会員、大松会員より、実際の例に則した質問が成され、更に深いお話を聞くことができました。

◎お礼

会長 伊澤ケイ子

◎点鐘

会長 伊澤ケイ子

(今週の担当 萩生田政由)